

第 2 回 館山市議会臨時会 会議録

1 平成4年11月7日(土曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

| | |
|-----------|-----------|
| 1番 秋山 光章 | 2番 増田 基彦 |
| 4番 斉藤 実 | 5番 宮沢 治海 |
| 6番 植木 馨 | 7番 鈴木 順子 |
| 8番 永井 龍平 | 9番 脇田 安保 |
| 10番 庄司二三男 | 11番 山崎 雅己 |
| 12番 岩村 勝弘 | 13番 榎本 春光 |
| 14番 小宮 利夫 | 15番 山中金治郎 |
| 16番 鈴木 勝美 | 17番 鈴木 忠夫 |
| 18番 日下 君敏 | 19番 川名 正二 |
| 21番 神田 守隆 | 22番 福原 勤 |
| 23番 石井 昌治 | 25番 流山源次郎 |
| 26番 辻田 実 | 28番 飯田 義男 |

1 欠席議員 3名

| | |
|----------|----------|
| 3番 島田 保 | 20番 生稻 陸 |
| 27番 横溝 功 | |

1 出席説明員

| | |
|------------|------------|
| 市長 庄司 厚 | 助 役 小幡 清之 |
| 収入役 川上 義雄 | 市長公室長 永野 修 |
| 総務部長 斉藤 賢司 | |

1 出席事務局職員

| | |
|------------|--------------|
| 事務局長 兵藤 恭一 | 事務局長補佐 土橋 康彦 |
| 書記 鈴木 哲 | 書記 鈴木 修一 |
| 書記 松浮 郁夏 | |

1 議事日程

平成4年11月7日午前10時開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 発議案第6号 佐川急便疑惑の全容解明と政治改革の早期実現 を求める意見書について

開 会 午前10時10分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数24名、これより平成4年第2回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

◎議長（福原 勤君） 本臨時会議案審議のため、地方自治法第121条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので、御了承願います。

なお、市長から地方自治法第180条の規定による専決処分が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の配付

◎議長（福原 勤君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

◎議長（福原 勤君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

9番議員脇田安保君、18番議員日下君敏君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

◎議長（福原 勤君） 日程第2、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき議会運営委員会の意見は本日1日ということであり
ます。

お諮りいたします。会期を本日1日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、会期は本日1日と決定いたしました。

市長のあいさつ

◎議長(福原 勤君) これより市長のあいさつを求めます。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 本日ここに急遽第2回市議会臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆さん方におかれましては、御多忙の折御出席を賜り、まことにありがとうございます。

今回急施を要するものとして御審議をお願いいたします案件は、佐川急便疑惑の全容解明と政治改革の早期実現を求める意見書についてでございます。

よろしくお願い申し上げます。

◎議長(福原 勤君) 以上で市長のあいさつを終わります。

議案の上程

◎議長(福原 勤君) 日程第3、発議案第6号佐川急便疑惑の全容解明と政治改革の早期実現を求める意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(福原 勤君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(福原 勤君) 議案の説明を願います。

榎本春光君。

(13番議員榎本春光君登壇)

◎13番(榎本春光君) ただいま議題となりました発議案第6号佐川急便疑惑の全容解明と政治改革の早期実現を求める意見書について提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり、政治にまつわる不祥事の続発は国民の政治不信を増大させています。特に、このたびの佐川急便疑惑にかかわる全容解明を求める声は大きな世論となっております。この際、本市議会といたしましても、佐川急便疑惑の全容解明と政治改革の早期実現を強く関係機関に要望することは市民の負託に応えるものと考え、臨時議会の招集を請求し、お手元に配付のとおり8名の賛成者を得まして本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

◎議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論ありませんか。

神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 本案に賛成議員の1人といたしまして賛成討論をいたします。

国会での代表質問の真っ最中に東京佐川事件公判の検事調書で明らかにされた内容は、余りにも常軌を逸したものでありました。竹下 登氏の政權とりの邪魔になる憂め殺し宣伝の右翼に30億円、20億円の金額を提示し、土下座に近いことまでした衆議院議員もいたとの報道もありました。かかわったのは、金丸 信前副総裁、小渕恵三前幹事長、梶山静六国対委員長、森 喜朗政調会長、浜田幸一広報委員長ら、自民党の中枢メンバーというのでありますから、国民が驚き、あきれ果てたのも当然であります。しかも、自民党議員による工作失敗後、広域暴力団の稲川会会長に問題解決を依頼。そこから黒い資金の莫大な流れも生まれたのであります。この問題はいかなる性格の問題なのかははっきりさせなければならないと思います。

宮沢首相は6日の答弁では、気色ばんで内容があたかも事実であるかのような前提で論評するのは妥当でない、言われた人は反論の機会が与えられるのかと居直りました。事ここに至ってなお問題の自民党首脳をかばうことのみに腐心する首相とは情けない限りであります。首相らは、金丸5億円事件の事情聴取なし決着を追及されたときには検察は法の定める必要な捜査を行ったと強弁しておきながら、自民党首脳の名が並んだ検事調書は信用できない代物と描くことに躍起になっているのは、まことに滑稽だと言わなければなりません。

問題は、日本共産党の不破委員長が代表質問で指摘いたしましたように、日本の首相の選出の過程に暴力団を介入させたのであって、これは首相を含む自民党首脳部が法秩序の外にある反社会的な集団と手を結んだことであり、法治国家の根本を否定したことではないでしょうか。その関係は終了した過去の出来事ではなく、竹下氏が30億を出しても抑えなければならなかった弱味とは一体何であったのか、この問題1つとっても徹底究明しない限り、竹下氏や自民党はいつまでも暴力団によるおどしの構造に取り組み続けたままになります。竹下派を後ろ盾とする宮沢内閣も決して例外とは言えません。

右翼の妨害封じのために金丸氏の依頼を受けて稲川会に話をつけた東京佐川急便の渡辺前社長は、そのことで大きな借りができて、何と2,500億円もの債務保証、融資をこの暴力団に融通させられました。弱味を握れば徹底的

に食らいつく社会の敵、犯罪シンジケートの暴力団に、政権党や政権そのものが頭が上がらない状況をつくったら日本はどうなるのか。一切の政治家と暴力団とのかかわりを白日のもとにさらし、その関係を断ち切らない限り、暴力団に政界支配の黒い手を伸ばさせる余地を残すことになります。これら暴力団と自民党中枢の政治家らが暗黒部分にうごめいた異様な状況は、日本の政治の名誉のためにも絶対にあいまいにすることを許されない問題ではないかと思います。

私も日本共産党は、一貫して政治改革の中心問題、緊急課題として強調し続けた、政治改革の中心に据えるべき問題として力説した企業、団体献金の禁止の問題が今や大きな国民世論に広がっております。我々は佐川疑惑の全容を徹底的に解明し、そしてこうしたくされ縁のない政治をつくるには、企業、団体献金を禁止、こうした方向に大きく踏み出すことが必要だというふうに考えます。

以上の点を主張し、私の賛成討論といたします。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私もただいま提案のございましたこの佐川急便疑惑の全容解明と政治改革の早期実現を求める意見書について、賛成の立場で討論をいたします。

この件につきましては、8月27日の自民党前副総裁、金丸 信氏の記者会見で佐川急便から5億円を受け取ったと認めた上で副総裁を辞任をすると表明したことに端を発しているかと思えます。その後の金丸氏へのたび重なる検察からの呼び出しに対しても、上申書なるものを提出し20万円の罰金で済ませたことに対し、国民の糾弾の声によりついに議員を辞職せざるを得なくなったことは周知のとおりであります。

しかしながら、その後の国民の声は、略式起訴で済ませた検察に対する不信、また竹下政権誕生の際に暴力団の力をかりたということ、まことに衝撃的なことでありました。国民の政治への不信はいまだかつてないほどのものであると言われておりますが、我々暴力団といいますと、追放運動であるとか、壊滅運動であるとか、関係者の方々が大変地道に日々努力をされ、暴力

団新法もでき、行政や警察、関係団体の方々が必死になって暴力団壊滅の方向で取り組んでいる一方で、事もあろうに政治の最上位にある者が暴力団の親分に頭を下げて右翼の口封じを依頼をし、感謝をしたという事実は、衝撃以外の何物でもありません。

また、今回の事件は国民に納税に対する意識を減退させることにもなりかねません。我々一般庶民は、一切の収入に対し定められた税法により税額が決められて納税をしております。にもかかわらず、政治資金規正法の問題点が今指摘をされておりますが、5億円もらったと認めた金丸氏のその後の政治資金の報告は訂正されたのかどうか。自ら配ったとされる竹下派60数名の方々の報告書訂正もされていないということで、依然闇の中であります。

国民が注目をする中で10月30日に開会をされた国会の首相所信表明においても、また答弁においても、政治改革の方向づけさえも表明されないままでおるのが現実です。

この際、当館山市議会において提案をされておりますこの議案につきましては提出者及び賛成者の諸氏に対し深く敬意を表しつつ、私どもの願いが国政の場におきまして真剣に討論、対応していただけることを願いつつ、賛成の討論といたします。

◎議長（福原 勤君） 他に討論ありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午前10時26分

◎議長（福原 勤君） 以上で本臨時会に付議されました議案は議了いたし

ました。

よって、これにて第2回市議会臨時会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

1 会議録署名議員の指名

1 会期の決定

1 発議案第6号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長 福 原 勤

館山市議会議員 脇 田 安 保

館山市議会議員 日 下 君 敏